



# くさしぎ便り No.23

プラットフォームだより

くさしぎ・草の根市議と市政を考える会 2021年1月発行 e-mail kusasigi@nifty.com  
ホームページは「辻よし子と歩む会」で検索してください。

このごろ、あきる野の町でも外国の方かなと思う人を見かけるようになりました。どういう風に生活しているのか、ご不便はないのか気になります。

「多文化共生」担当の市職員の方から、あきる野市に暮らす外国人の概要と課題を伺ってみました。

## 第10回 市民のプラットフォーム

2020年10月15日(木)14時~16時

あきる野ルピア



### どうしてる？

### この町の外国人

お話 企画政策課

「多文化共生」担当

## ご存じですか？「多文化共生」



普段の生活では、なかなか見えてこないかもしれませんが、現在、あきる野市内には約1000人の外国人住民が住んでいます。その方たちに、私たち行政がどのように対応していったらよいかは、大きな課題です。指針としているのは、2006年に総務省が示した「多文化共生」という考え方です。

多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いに文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」です。

あきる野市でも、多文化共生を市の総合計画の中に位置づけ、取組みを進めています。

主な取り組みは、以下の3つです。

- ① 国際姉妹都市マールボロウ市との教育交流  
市内の中学生とマールボロウ市のミドルスクールの生徒を相互に派遣・受入れして、国際的人材の育成をはかっています。
- ② ホームページ、看板等の多言語化  
市のホームページには、英語、中国語、韓国語、スペイン語の翻訳機能がつけられています。今、スマホでも同様に、翻訳画面で閲覧できるように改善を進めています。看板やパンフにも英語などの標記を追加しています。(後日、スマホにおいても翻訳画面で閲覧可能になった。ベトナム語閲覧もPC、スマホともに追加された。)
- ③ 外国人相談窓口の設置  
市民課市民相談窓口、翻訳機能のあるタブレッ

トを置いて、外国人の対応に活用しています。

以上が行政の取組ですが、市民の立場で多文化共生をめざして活動している方々もいます、マールボロウ市の子どもたちの受け入れ家庭が中心になった「ホストファミリークラブ」や「国際友好クラブ」、マールボロウ市に派遣されたOB・OGグループの「あきる野市国際化推進青年の会」などです。また、ふれあいセンターで外国人に日本語を教える「あきる野市日本語サークル」というボランティア団体もあります。

## 行政から見た外国人の生活



市内の外国人の数を国別にみると、近年は中国人ではなくベトナム人が最も多くなっています。(表参照) 背景には、ベトナム政府が労働者の送り出しに熱心であることやベトナムと比べると、日本の方が賃金が高く、留学生にもアルバイトが認められているなど、ベトナム人にとって魅力的な要因があるためと思われます。一方、中国は本国の経済発展に伴って、いったん海外に出た人たちまで自国に呼び戻している状況です。

次に、市内の外国人の暮らしぶりは?というところ、例えばコロナ禍で生活が困窮したという相談は来ていません。(10月1日現在)が、住居確保給付金を利用された方がいました。同じくコロナ禍対策のひとつ、特例緊急小口資金の貸し付けも25人の外国人が利用されています。これらの申請を受ける時には、スマホの翻訳アプリ等を使いコミュニケーションを図っていますが、細かいニュアンスが伝わらないなどの課題もありました。

また、今のところ、外国の方が地域でトラブルを起こしたという事例は確認されておりません。むしろ積極的に地域の活動に参加されている方もいると聞いています。地域でトラブルになりやすいゴミ出しも、市内で問題が起きるのは年に1, 2回です。ゴミ出しカレンダーに英語、韓国語、

中国語で案内文をつけ、希望者には手作りのベトナム語の案内もお渡ししています。

災害時に、言葉が分からないと大変です。市のホームページの翻訳機能を利用して情報を得ただけのようにと案内しています。また、ハザードマップには、外国語表記を付しています。

次に、子どもたちの教育環境についてですが、市内在住の外国人は単身者が多く、16歳未満の子どもたちの総数は55人と少なめです。そのうち、幼稚園・保育園に通園する児童は17人、小学生が14人、中学生は6人。

幼稚園、保育園では、片言の日本語やジェスチャーで対応する子もいますが、他は日本語対応であまり不都合もなく生活を送っています。もちろん、必要ならば通訳を配置することもあります。

難しいのは保護者への対応で、学校からの配布物が読めずに、学校と行き違いが生じるなどささいなトラブルが起きないように工夫しています。

子ども家庭支援センターにも、年に1, 2件、外国人からの相談があります。英語の得意な職員が通訳をしたり、相談者がカタコトでも日本語ができる人を連れてくるなどで、言葉の問題はクリアできているようです。また、国によって子育ての慣習が違う場合があり、例えば子どもをたたくことが、本国ではしつけの範囲であっても日本では虐待になってしまうことなど、日本のルールを理解して頂くのに苦労する場合があります。



## 質問コーナー



**Q:** 行政に相談する人が少ないのは、そもそも日本語が分からない人が多いためでは?

**A:** 今後の課題だと思います。実際のところ外国人の割合が高ければ、行政の認識度も上がり、対応する優先度も増しますが、現在の市内における外国人の割合は全人口の1%弱であり、積極的に行政が動いていく段階にはなっていません。た

## 5 あきる野市における国籍・地域別外国人住民人口（令和2年9月14日現在）

（当日資料より）

国籍・地域	16歳以上 (男)	16歳以上 (女)	小計	16歳未満 (男)	16歳未満 (女)	小計	合計
ベトナム	162	64	226	1	1	2	228
中国	38	97	135	10	9	19	154
フィリピン	36	103	139	3	5	8	147
韓国	47	65	112	2	1	3	115
米国	41	13	54	1	1	2	56
ペルー	18	19	37	4	3	7	44
インドネシア	31	6	37	0	0	0	37
ラオス	15	15	30	1	3	4	34
ブラジル	13	10	23	4	1	5	28
台湾	4	20	24	0	0	0	24
タイ	1	21	22	1	0	1	23
ミャンマー	18	2	20	0	0	0	20
スリランカ	12	3	15	1	0	1	16
モンゴル	11	1	12	1	0	1	13
朝鮮	7	5	12	0	0	0	12
ネパール	4	3	7	1	0	1	8
パキスタン	5	2	7	0	0	0	7
英国	5	1	6	0	0	0	6
アフガニスタン	2	3	5	0	0	0	5
バングラディシュ	3	0	3	0	0	0	3
チリ	1	1	2	0	1	1	3
ガーナ	2	1	3	0	0	0	3
ロシア	0	3	3	0	0	0	3
キューバ	2	0	2	0	0	0	2
ボンジュラス	0	2	2	0	0	0	2
インド	2	0	2	0	0	0	2
オーストラリア	1	0	1	0	0	0	1
カンボジア	1	0	1	0	0	0	1
カナダ	1	0	1	0	0	0	1
ベナン	0	1	1	0	0	0	1
フランス	1	0	1	0	0	0	1
イラン	1	0	1	0	0	0	1
ジャマイカ	0	1	1	0	0	0	1
モルドバ	1	0	1	0	0	0	1
ナイジェリア	1	0	1	0	0	0	1
ルーマニア	0	1	1	0	0	0	1
スペイン	0	1	1	0	0	0	1
シリア	0	1	1	0	0	0	1
トルコ	1	0	1	0	0	0	1
サモア	0	1	1	0	0	0	1
合計	488	466	954	30	25	55	1009

だ、今後外国の方が増える可能性もありますので、早めに取り組みを進めたいと思います。

Q: 市民にも多文化共生をめざしてもらうために、「やさしい日本語」を学んでもらうような講座が必要ではないか。

A: 市では、外国人の方を孤立させない取り組み

に力を入れていると思っています。「やさしい日本語」はコミュニケーションの有効な手立てとなります。今年はそのような講座を開講できませんでしたが、来年度以降チャレンジしたいと思っています。

Q: 在留資格のない外国人も支援できるのか？

A: 不法滞在者の支援は難しい面があります。

ただし、緊急に援助が必要な場合は、支援すべきだと考えています。

**Q:** 長く住んでいる外国人はどのような資格をもっているのか？

**A:** 永住権を保持されているか、在留資格を更新して日本に住んでいらっしゃるのだと思います。

**Q:** 外国籍の子どもの数は、現在は少ないが、これから増えていく可能性がある。対策は？

**A:** 教育の場に対応できるよう準備していく必要があると思います。現在、学校では、外国籍の子ども日本語に対応していますが、ひとりひとり登録してもらい、その子に応じた学習支援がよくなるかもしれません。



## おしゃべりコーナー



● 福生の「ゆうあいふっさ」というグループで、在住外国人の日常の手助けや日本語指導をしている。会に参加してくる人たちには、技能研修生のように日本語能力を向上させて、キャリアアップを図りたい人もいるが、そういう人には物足りない内容かもしれない。ブラジル人もいて、ポルトガル語の翻訳がついていないために市報は難しく、分からないと話していた。市から私たちの活動に対して、経済的支援はない。

● 「あきる野日本語サークル」で外国人に日本語を教えている。活動日は金曜日の夜7時半から9時まで、場所はふれあいセンター。ただし、コロナ禍のために、3月から活動を休止している。ボランティアの人数は10人不足、受講生は日本人と結婚したフィリピン人女性や工場働くベトナム人など。出席者の数は波があり、寒い時期は5人ほどの時もあるが、マンツーマンで教えている。介護の仕事をしている受講生が、介護日誌を日本語で書くのがとても大変だと話していた。介護の専門用語にも、「やさしい日本語」のような配慮がほしい。

● 日本ベトナム友好協会の東京連合会の理事をし

ている。日越友好協会は最も歴史がある団体だが、会員の高齢化が課題となっている。

在日のベトナム人は若い人を中心に増えているが、私たちのような団体ではなく、SNSで1000人、2000人のグループをつくって情報を交換し合っている。この3月にあきる野市広報で日越友好協会・東京連合会への入会を呼び掛けたが、反響はほぼなかった。町で外国の方を見かけたら、「こんにちは」と声をかけながら、集える場を作りたい。

● 南米音楽のグループでケーナを吹いている。インド料理のお店で演奏して、従業員のインド人やネパール人たちと話し、ちょっとした相談に乗ったり、音楽を教えたり、お互いに言葉を教え合ったりしている。あまり気張らずに自然な形で交流ができるといい。それには、笑顔で挨拶するのが一番。「こんにちは」「ナマステ」から始めるといと思う。外国で暮らした時、怖い思いをした。今度は、自分が外国の人たちのよい隣人になりたい。

● 昭島のホテルでは、様々な国の人がベッドメイキングの仕事に就いている。日本語が話せない人が多く、日本語を学びたいというニーズは高いが、昭島には、市民団体で日本語を教える教室がないので、そうしたものがあるといいと思う。個人では声をかけにくい。

● 外国人労働者が多い地域では、外国籍の子どもの不就業率が高いと言われている。親たちが勉学を軽視するような本国の常識にとらわれて、子どもたちを学校に送り出さないようなら、「子どもの権利条約」に照らして問題だ。ぜひ手立てを考えて、そうした子を孤立させないでほしい。

次回「プラットホーム」のお知らせ  
テーマ 「どうしてる？」

## あきる野の外国人」 II

日程・詳細 後日お知らせ

あきる野市に住む外国人の方からお話を伺う予定です。ご参加お待ちしております！